

プロジェクト報告書

田村萌々花

助成年度	2015年
助成番号	15-26
申請主題	オスロ大学での修士課程留学『人権の理論と実践』コースプログラムを学ぶ
所属機関	オスロ大学

1. 留学の目的	
修士号の取得を通して、人権に関する知識・スキルを身につける。今後のキャリアに活かせる専門性を高める。	
2. 留学中の活動	
留学先	オスロ大学法学部 (Master's program on Theory and Practice of Human Rights)
留学期間	2014年8月から2016年7月
専門分野の修得	哲学修士号 (M.Phil) の取得見込み(2016年5月)
語学の修得	英語での授業のため、おもに英語での読み書き、会話などのスキルを上達させることができましたと思います。まだ専門的に文章を書いたり話したりするには、さらなる訓練が必要であることも実感しています。 また、ノルウェー語は授業をとってはいないものの、インフォーマルな言語パートナーと、週一回の語学ミーティングを行い、日本語・ノルウェー語の相互の学習をする機会を持ちました。その中で、文化も含めて、ノルウェー語の語彙や会話を勉強しました。
異文化交流	ノルウェーの美しい自然と、山小屋キャンプ(ヒュッテ)などの活動を大いに味わった。その他、イースターやクリスマスなど、キリスト教の伝統文化についても経験しました。 クラスメートの中には、ノルウェー人が数名、そしてさまざまな国からの学生がいました。みなと友達になる中で、お互いの文化を話し合ったり、教え合ったりする機会が多々ありました。ヨーロッパに来ると、ほかのアジアの学生との親近感を感じました。そしてさらには、日本の文化について、もっと話すことができるような知識が必要だと気付きました。 学生生活を送る中で学んだ一つのノルウェーの文化は、「平等」な人間関係です。先生と学生の関係が、日本では上下ですが、ノルウェーでは横に近いことに初めは戸惑いました。教授のことをファーストネームで呼ぶなど、とても気軽に接することができる環境にあることを実感しました。 ノルウェーは、北の寒い国というイメージがあったけれども、私にとって、つらいのは寒さではなくて暗さでした。嫌いというわけではないけれども、毎日勉強詰めの日々にとって、冬の間は太陽の出ている時間がとても短いことは、なかなか辛いと思いながら励まし合う日々でした。しかし、そのような環境の中にあるキャンドルの文化はとても美しく、印象に残っています。  今、一気に太陽の日差しが戻ってきています。まだ外は肌寒いけれども、光を浴びることの幸せが感じられる季節にとってもわくわくしています。

山、海、雪、日の光など、自然とともにあるノルウェーの文化を大いに体験している毎日です。

### 3. 留学経験を通じて得たもの

オスロ大学の修士課程に進学できたことは、まず自分の励みになっている。と同時に、そこでも経験は、自分の視野をさらに広げ、人生の幅を広げるものであると感じている。

現在、修士論文の完成に向けて日々机に座る日々ではありますが、この2年間で国際法における人権について、さまざまな学問的アプローチから知識を得ることができました。さまざまな先生方による講義のみならず、クラスメートとの話し合いや、公開セミナーなどへの参加、またインターンの機会を経て、ほとんど知らなかった人権分野の学問的活動・コミュニティ・近年の議論について、理解を深めることができたと思っています。修士論文のための研究においては、少数民族の権利を中心に自分なりに文章をまとめようと試みているところです。

課外活動においては、ノルウェーの市民社会グループのメンバーとして、環境・開発問題に取り組んでいます。この活動からは、持続可能な社会を作るための日々の自分たちの生き方や、気候変動問題に関する知識を深めています。グループに所属して活動できた経験は、その内容のみならず、市民としてどのように積極的に社会に貢献していくかという方法面でも、刺激を受けました。

そのほか、いろいろ得たものをすべて書きだすことはここではできませんが、異なる生活環境で暮らした経験自体が、自分の視野を広げ、人的ネットワークを広げ、人生の幅を広げることであったと感じています。

### 4. 今後の展望、進路、感想

卒業後は、働き、職務経験をまず得る予定です。そして、国内外を問わず、人権に関する職に就きたいと考えています。ノルウェーでの就学経験を活かし、日本とノルウェー間のより良い関係作りにも、何らかの形で貢献できたら、と考えています。



Hyttetur, March 2016

以上